



第149号

宮城県亶理農業改良普及センター

〒989-2301

亶理郡亶理町逢隈中泉字本木9

TEL 0223-34-1141

FAX 0223-34-1143

E-mail wrnokai@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>



第62回全国リンゴ研究大会宮城大会 結城果樹園の視察

果樹産地の拡充に向けて

宮城県亶理農業改良普及センター 総括次長 門間豊資

去る8月24日から25日にかけて、宮城県で「第62回全国リンゴ研究大会宮城大会」が開催されました。詳細は後述のとおりですが、亶理町の結城果樹園が現地視察地の一つとなり、盛会裏に開催されました。

さて、県内のりんご栽培面積は、昭和44年には1,240haありましたが、令和3年には178haと著しく減少しています。主な原因は、担い手の高齢化や後継者不足等ですが、その背景には摘果や収穫などの管理作業の機械化が進んでいないこと等が挙げられます。国の調査によると、りんごの10a当たり作業時間は270時間程度で、そのうち授粉・摘果作業と収穫・調整作業を合わせると、全体の4割程度を占めていますが、これらのほとんどは機械化が進んでおらず、手作業で行われています。平成29年度から4か年、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構を中心に官民が連携した果樹

生産の大幅な省力化に向けた機械化等の研究開発が行われ、プロトタイプの実用化に向けた見通しです。

他方、県内一のみりんご産地である亶理名取管内では、贈答用「ふじ」の人気は依然として高いものがあり、また、国の補助事業を活用した優良品種・系統への改植も進んでいます。さらに、近年はぶどう「シャインマスカット」や生食用いちじくの栽培面積が増えています。こうした動きは県内の他管内でもみられることから、果樹に対する需要が底堅いことがうかがわれるとともに、今後、本県の果樹産地が新たなステージを迎える兆しと捉えられます。

当普及センターでは、今後とも果樹後継者の確保・育成、りんご栽培技術向上支援、新たな品目の産地拡大に向けた栽培技術支援などに取り組んでまいります。

地域
の話題

加工用ばれいしょの収穫・出荷が完了しました

岩沼市内では、令和3年から加工用ばれいしょ栽培への取組が始まっており、本年は市内の2法人が水田及び畑の約6.3haでばれいしょを栽培しています。

昨年は、7月の豪雨等の影響で湿害や病害が発生し、目標にしていた10a当たり3,000kgの収量目標を達成できませんでした。本年はカットドレイン等による徹底した排水対策を行った上で、3月下旬から随時、ばれいしょを植付け、適期に肥培管理や病害虫防除を行うことができ、また、降雨による影響もほとんど受けなかったことから、7月中旬頃から収穫が開始されました。

ポテトハーベスタを使用した収穫では、ハーベスタ上で6～8人の作業者が土塊や小さいもの等の規格外いもの選別作業を行いました。今年は天候にも恵まれたことで作業が順調に進み、8月中旬には全てのほ場で収穫が完了しました。2法人合わせた平均単収は、3,100kgを超え、目標収量を上回ることができました。出荷されたばれいしょは、他の県産ばれいしょとともにポテトチップに加工され、8月中旬頃から「宮城県産」の表示が入った袋で販売されました。



ドローンによる薬剤散布



収穫・選別作業

地域
の話題

地域計画策定に向けた地区協議始まる

農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴い、さらなる人口減少や高齢化の本格化による耕作放棄地増加の懸念を払拭するため、一枚一枚の農地を将来、誰が耕作するのかを地図化（目標地図）する地域計画の策定が義務化されました。

管内では8月下旬、亶理町と岩沼市において、地域計画策定に向けた地区協議が行われました。始めに当普及センターから認定農業者の年代別割合等、担い手の現状をもとに「10年後の農地はどうなる？」についての話題提起と地域計画策定の意義を説明し、その後、市町から具体的な進め方の説明があり、参加者で地域の課題等について協議しました。

参加者からは、「地域に後継者がいない」、「小さい農地はどうするのか」、「誰に委託するにしても農地を荒らしてはいけない」などの意見がありました。

今後、名取市と山元町も含め、各市町でのアンケート調査や担い手の意向をもとに目標地図の素案を作成し、引き続き協議していく予定です。



担い手の現状を説明



地域の課題について協議

地域
の話題

いちご新規生産者・後継者向け勉強会を開催しています

亶理・山元地域のいちごは、東日本大震災後の創造的復興により約68haに及ぶ東北一の産地となっており、生産を再開した生産者の後継者や県外からの新規参加者など、いちご生産に取り組む若手が増加しています。こうした中、各生産者間の繋がりや栽培に関する情報交換等の機会が少ない状況にあり、これらを解決するために関係機関と協力し、「いちご新規生産者・後継者向け勉強会」を開催しています。

地域内のいちご生産法人等を会場に6月から勉強会を定期的で開催し、第3回は8月18日にJAみやぎ亶理の亶理山元いちご選果場で「いちごの花芽分化」をテーマに開催しました。勉強会では定植時期に適した花芽の状態や、実際の検鏡の様子も参加者全員で見ることができました。また、グループワークを行い、参加者同志の意見交換をする機会も設けました。参加者からは、「検鏡でモニターに写し出された花芽を初めて見ることができた」、「初めて会う人と話すことができた」、「若い人が沢山いることが分かって嬉しい」などの感想が聞かれました。11月9日には第4回の勉強会「IPMに向けた防除の取組～アザミウマ対策等～」を開催しました。

当普及センターでは、引き続きいちご新規生産者・後継者向けの支援をしていきます。



グループワーク



第3回勉強会の参加者

地域
の話題

第62回全国リンゴ研究大会宮城大会が開催されました

令和5年8月24日から25日の2日間、第62回全国リンゴ研究大会宮城大会が開催されました。宮城大会は、平成19年の第54回大会以来、16年ぶりの開催となりました。

1日目は松島町「ホテル松島大観荘」で研究大会が行われ、亶理町りんご生産者の齋藤勝市氏が、全国果樹研究連合会会長賞を受賞しました。

2日目の現地視察では亶理町の結城果樹園が視察地の一つとして選ばれ、宮城県内外のりんご生産者等約230人が来園しました。視察冒頭、山田周伸亶理町長と結城果樹園3代目の結城翔太氏が挨拶を行い、大会開催を歓迎しました。参加者から、結城果樹園の栽培管理や販売方法等について多くの質問があり、結城翔太氏が丁寧に回答していました。

当普及センターでは、今後も管内りんご産地の支援を行っていきます。



齋藤勝市氏受賞



園地説明を行う結城翔太氏

地域
の話題

カーネーションIPM実証の視察が行われました

名取市花卉生産組合のカーネーション生産者は、化学合成農薬だけに頼らず天敵を活用するなど、様々な技術を併用して病害虫の発生を抑制するIPM（総合的病害虫管理）の実証に取り組んでいます。

令和5年9月11日に国や東北各県の試験研究機関の担当者らによる現地視察（東北農業試験研究推進会議生産環境推進部会病害虫研究会）があり、当普及センターも実証農家や農業・園芸総合研究所とともに、現地で実証内容の説明を行いました。

ハダニ類対策の天敵活用、アザミウマ類対策の赤色防虫ネットの設置で得られた結果や、光反射資材のマルチ利用等、今回新たに追加した取組を紹介しました。

取組の効果や栽培管理に関する出席者からの質問に対し、害虫防除の効果やコストを含めた総合的な評価の必要性等、実証農家から回答があり、技術の普及による成果と課題を関係者間で再確認する有意義な機会になりました。

花き類のIPMの取組はまだ事例が少なく、地域への定着や技術の発展が期待されることから、当普及センターでは関係機関と連携して今後も支援を行っていきます。



実証農家からの所感



実証結果の解説

地域
の話題

子実用とうもろこし収穫実演会を開催しました

令和5年9月12日、名取市植松の農事組合法人U.M.A.S.I. 管理水田ほ場において子実用とうもろこし収穫実演会を開催し、農業者や関係機関等40人が参加しました。開催に当たっては、同法人と、株式会社中セキ東北宮城支社から御協力をいただきました。

実演会では、当普及センターから子実用とうもろこしの栽培概要を説明し、同法人大友寛志代表理事から耕種概要を説明いただいた後、収穫作業の実演が行われました。始めに、同法人所有の三菱小型汎用コンバイン（リールヘッド式）で、続いて中セキ汎用コンバイン（コーンヘッド装着）で収穫が行われました。参加者は実際に収穫作業を見ることでそれぞれの機械の特徴などを確認していました。

当普及センターでは、今後も主食用米から新たな転換作物の導入に向けた検討を支援していきます。



子実用とうもろこし収穫実演会

地域
の話題

農業大学校の先進農業体験学習終了式が開催されました

令和5年10月6日、当普及センターを会場として、農業大学校における先進農業体験学習の終了式が開催されました。本学習は農業大学校の1年生が、先進的な農業経営を実施している農業者の下で、33日間、農業技術や経営について学ぶものです。

当普及センター管内では、12人の学生が土地利用型や園芸及び加工等の経営をされている先進的な12経営体から指導を受けました。当学習が開始される前は、少し不安そうな表情を浮かべていた学生達ですが、終了式では自信がついた様子が見受けられました。学生から受入農家に対して、「貴重な体験ができて幸せな1か月だった」等とお礼を述べていました。また、受入農家からは、「よく頑張りました。これからの学生生活に活かしてください」等の激励の言葉をいただきました。

学生を受け入れていただきました皆様に感謝申し上げます。



先進農業体験学習終了式

農業士
の紹介

新任農業士のご紹介

宮城県では、時代の農業を担う人材の育成と地域農業の振興に貢献している農業者を「農業士」として認定しています。令和5年度に新たに山元町の佐藤拓実さんを認定しました。

【指導農業士】山元町 佐藤 拓実さん

仲間とともに山元町内で設立した「株式会社 一蓂一笑」の代表として、いちご生産のみならず、仙台市泉区で観光農園の開設やいちごを使った菓子類の商品化等、6次産業化にも取り組まれています。



祝・受賞

令和5年度 宮城県農林産物（うるち玄米部門）・花き品評会の結果報告

令和5年10月20日に花き品評会、11月13日～14日に農林産物品評会（うるち玄米部門）が開催され、当普及センター管内では数多くの方が入賞しました。おめでとうございます。また、品評会に御協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

なお、農林水産物品評会における野菜部門及び果樹部門は別途、開催予定です。

◇宮城県農林産物品評会（うるち玄米部門）

写真No.	品種名	市町村	氏名(敬称略)	受賞
①	ひとめぼれ	名取市	有限会社 耕谷アグリサービス	宮城県知事賞（2等） 公益社団法人みやぎ農業振興公社理事長賞
②	ひとめぼれ	名取市	株式会社 MAM	宮城県知事賞（3等）
③	ひとめぼれ	岩沼市	農事組合法人 林ライス	宮城県知事賞（3等）

◇宮城県花き品評会

写真No.	品目名	品種名	市町村	氏名(敬称略)	受賞
④	ばら	チアフル	名取市	丹野 岳洋	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞（金賞第一席） 農林水産大臣賞 仙台生花株式会社代表取締役社長賞
⑤	カーネーション	バルッロ	名取市	三浦 智和	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞（銀賞）
⑥	ひまわり	F1サンリッチ ライチLD	名取市	丹野真知子	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞（銀賞）
⑦	ストレリチア	—	名取市	丹野 司	宮城県花と緑普及促進協議会会長賞（銀賞）

